



令和元年東日本台風から3年 ～あの日を忘れない～



令和元年10月に発生した台風第19号（令和元年東日本台風）は、全国の河川に氾濫や土砂災害などの甚大な被害をもたらしました。荒川流域でも大雨特別警報が発令され、多くの場所で観測史上最大の雨量を記録するとともに、支川の越辺川、都幾川で堤防が決壊などにより、東松山市、川越市、坂戸市、川島町などの広い範囲に浸水被害をもたらしました。この被害を受けて入間川緊急治水対策プロジェクトを立ち上げ、関係機関や周辺市町と連携し、洪水被害の軽減に向けた取り組みを行っています。

死者 4名

住宅全壊 134棟

床上浸水 2370棟

床下浸水 3388棟

出典：埼玉県消防防災課



【ヘリ位置】埼玉県比企郡川島町

【撮影位置】埼玉県都川市

越辺川平塚新田地区

浸水状況の空撮写真・遠景



都幾川早俣地区

堤防決壊箇所の空撮写真・遠景



越辺川平塚地区

決壊状況の地上写真：近景



都幾川早俣地区

決壊状況の地上写真：近景

河道掘削・堤防整備など各地で進行中です。
プロジェクトの最新情報はコチラ …… ➤



入間川流域緊急治水対策プロジェクト

国・埼玉県・市町などが連携して①多重防護治水②減災に向けたさらなる取組の推進に取り組むことで、社会経済被害の最小化を目指します！

堤防整備

洪水で溢れたり、堤防が壊れたりしないよう、必要な高さや幅を確保します。

河道掘削・樹木伐採

洪水が溢れず流れる量を増やしたり、流れやすくすることで、川の水位を低くします。



遊水地整備

流域の遊水機能の確保・向上の取組として、地形や現状の土地利用等を考慮した遊水地の整備を進めています。

合流点処理

合流点付近において、支川の溢水・越水軽減、支川流域内における内水浸水の軽減や本川への流出抑制を兼ねた、遊水地や排水機場等を組み合わせた対策を検討していきます。

水位計・河川監視カメラ増設

主に河川の危険箇所に設置。
水位や静止画をHPで公表し、
より身近な情報を住民に提供。



避難所の確保

他機関や民間施設を協定を締結。
場所を確保し、避難所不足を補う。



防災メールの活用

自治体などに対し、登録制防災メール配信サービス等の登録促進を行う。



河道掘削・堤防整備など
各地で進行中です。

プロジェクトの
最新情報はコチラ ➤



令和元年東日本台風 荒川上流ダム群と荒川第一調節池の効果

昭和22年9月に発生したカスリーン台風などの洪水被害を受けて、ダム等の施設による洪水流の制御が必要と判断されたため、二瀬ダムをはじめとする荒川上流ダム群、荒川調節池群の建設設計画が始まりました。現在は、国土交通省と水資源機構の4ダム（二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、荒川第一調節池）のほか、埼玉県の2ダム（合角ダム、有間ダム）が完成・連携し、洪水被害の軽減に努めています。

カスリーン台風と同規模となった令和元年東日本台風では、荒川上流ダム群で約5,200万m³の洪水を貯留し、荒川上流区間の主要地点（寄居）の水位を約70～80cm低減させました。

また、荒川中流～下流区間では、荒川第一調節池において既往最大となる3,500万m³の洪水を貯留し、荒川上流ダム群の調節効果とも相まって、基準地点（岩淵）の水位を約30～40cm低減させました。

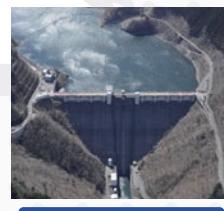
現在、ダム等による洪水調節能力を所定の水準まで高めるため、荒川第二・第三調節池の建設事業を進めています。このほか、入間川流域緊急治水対策プロジェクトや荒川水系流域治水プロジェクトによる取り組みと合わせて、荒川水系全体で治水機能の強化を図っていきます。



二瀬ダム（国土交通省）



滝沢ダム（水資源機構）



浦山ダム（水資源機構）



平常時



洪水貯留後

荒川第一調節池（国土交通省）